

# 新潟大学統一英語副教材について

秋 孝道

## Towards a Supplementary Textbook for Niigata University EFL Programs

Takamichi Aki

This report describes past and present work on a supplementary textbook designed for Standard English and Basic English courses at Niigata University. Section I outlines the EFL programs presently in place, and details the contributions the textbook can be expected to make to these programs. Section II illustrates how the textbook was prepared, and what advantages it offers. Finally, in Section III, some possible revisions to the textbook are mentioned, for implementation in the coming academic year.

*Keywords : EFL, Standard English, Basic English, supplementary textbook*

[注] 本報告書執筆は平成17年11月30日である。

### 0. はじめに

新潟大学では、平成17年度より、新しい英語教育カリキュラムが実施されている。このカリキュラムの四つの柱の一つをなすのが「新潟大学統一英語副教材」であり、その概要を本報告書で述べることにする。

### 1. 新潟大学英語カリキュラムと新潟大学統一英語副教材

新しい新潟大学英語カリキュラムの方針は以下のようまとめることができる。

- (1) 実践力重視のカリキュラム編成
- (2) 習熟度対応型履修システム
- (3) 到達目標の明示的な設定
- (4) 合理的かつ効率的な実施体制

(2)の「習熟度対応型履修システム」のもとでは、従来の単年度の英語履修制度を改め、「習熟度に対応した積み上げ型の英語教育」が実施されている。すなわち、第1・第2 Semesterに英語の基礎力を定着・強化させて上位英語科目のための「足腰」を鍛える演習を行った上で、第2・第3 Semester以降に実践的英語科目や学部英語科目を履修させている。

このような習熟度対応型履修システムでは、カリキュラムの基礎・基盤部分を構成する第1・第2 Semesterでの英語教育が格段に重要になる。そこで、第1・第2 Semesterの教育内容の到達目標を明確に定

めて教育内容の抜本的改善を進め、教育内容の「品質保証」をはかるために新潟大学統一英語副教材を開発することになった。

取り上げる内容については、他大学の事例などを参考にして、以下のような項目に絞ることにした。

- (A) 英語の音声について
- (B) 基本文法
- (C) イディオム表現について
- (D) 新潟大学英語基本語彙
- (E) TOEICについて

また、学生の授業以外の学習をも想定し、習得済みの英語知識を体系的に再構成し未習得の知識の補充・定着を進めて、「積み上げ型履修」に必要な基礎的英語力を十分に鍛えることができるような編成とすることが確認された。

### 2. 新潟大学統一英語副教材の開発

#### 2.1. 開発経費について

新潟大学統一英語副教材の開発に伴う第一の問題は開発費用であった。そこで、英語関係プロジェクトの最優先項目として各種プロジェクトに応募することになった。

まず「平成16年度教育プロジェクト事業」に応募したが、不採択であった。次に「平成16年度教育改善研究開発調査経費事業」に応募し、幸いなことに採択された。このプロジェクト申請の内容の一部を以下に記

すことにする。

新潟大学統一英語副教材開発プロジェクト  
(平成16年度教育改善研究開発調査経費事業)

代表 人文社会・教育科学系 教授 大石 強  
分担 人文社会・教育科学系 教授 加藤 茂夫  
分担 人文社会・教育科学系 助教授 本間 伸輔  
分担 人文社会・教育科学系 助教授 秋 孝道

#### 計画の概要・方法

来年度からの新潟大学英語教育の諸改善策の大きな柱となるのが、第1・第2セメスター段階での教育内容の到達目標を明示的に設定する統一副教材の開発である。この事業は、残念ながら、学長裁量経費(教育プロジェクト事業)の配当を受けることが出来なかった。そこで、教育改善研究開発調査経費として申請するものである。

来年度以降の新潟大学英語教育では、「全学生全科目単年度履修」という制度を改め、「習熟度に対応した積み上げ型の英語教育」を実施する。第1・第2セメスターに英語の基礎力を定着・強化させ、上位英語科目のための「足腰」を鍛える演習を行った上で、第2・第3セメスター以降に実践的英語科目や学部英語科目を履修させることとなっている。

このような「積み上げ型」制度のもとでは、カリキュラムの基礎・基盤部分を構成する、第1・第2セメスターでの英語教育が格段に重要になることは言うまでもない。そこで、第1・第2セメスターの教育内容の到達目標を明確に定めて教育内容の抜本的改善を進め、教育内容の「品質保証」をはかるために「新潟大学統一英語副教材」を開発することになった。

この副教材では、新潟大学の学生として活用可能となっているべき項目とその用法を、音声・語彙・文法・構文・情報構造等の分野にまたがって説明する。この作業はすで開始されており、今年度中に完成させ、冊子の形で学生・教員に提示する。また、可能であればWEB上でも公開したい。

現在の作業状況から考えて、副教材開発に必要な図書類が不足しており、整備を進める必要がある。また、副教材の作成・出版・使用・修正改変などに関して、東京大学・千葉大学などの「先進」大学の状況を調査研究する必要もあると判断される。

#### 2.2. 開発作業について

この平成16年度教育改善研究開発調査経費事業の予算措置を受け、「新潟大学統一英語副教材(平成17年度[2005年度]版)」の製作に着手した。その際、上記担当者四名を中心にして数度の編集会議を開き、編集方針を決定した。その主なものは、下記の通りである。

#### (イ) 文法に関して

「5文型」に依存しない構文解説を行う  
「省略・情報構造など」の未習得項目も扱う  
「解説」の形でより高度な内容も説明する

#### (ロ) 語彙に関して

TOEIC・学部英語を意識したリストを作る

#### (ハ) 発音に関して

発音記号を知らない学生にも配慮する

また、具体的な記載項目については以下のように定め、それに従って編集を進めた。

はじめに

#### 第1章 基本文法

- 1 動詞
- 2 動詞を述語とする代表的構文(1):  
述語連結要素の現れ方
- 3 準動詞
- 4 動詞を述語とする代表的構文(2):  
to+動詞・動詞+ingを述語連結要素として
- 5 名詞
- 6 代名詞
- 7 形容詞
- 8 形容詞を述語とする代表的構文
- 9 前置詞
- 10 副詞
- 11 接続詞
- 12 疑問文
- 13 助動詞
- 14 仮定法
- 15 否定文
- 16 関係詞
- 17 比較
- 18 省略
- 19 情報構造と特殊語順構文

#### 第2章 新潟大学英語基本語彙

#### 第3章 イディオム表現について

- 1 句動詞
- 2 イディオム

#### 第4章 英語の発音について

- 1 発音記号
- 2 強勢
- 3 イントネーション
- 4 音の連続
- 5 最後に

#### TOEICについて

完成した新潟大学統一英語副教材は、授業を通して一年次各学生に配布するとともに、参考のために各一部局に相当部数を配布した。印刷に要した費用(270,000円)は、配分された予算(300,000円)の9割

を占める結果となった。

### 3. 次年度に向けて

次年度に向けて取り組むべきこととして、以下の課題が挙げられる。

- (Ⅰ) 次年度版の印刷費用の確保
- (Ⅱ) 改訂・修正作業
- (Ⅲ) 基礎的教材の肉付け
- (Ⅳ) 副教材利用解説の作成

(Ⅰ)の次年度版印刷費用については、全学教育推進経費（英語部会分）に計上することが認められた。また、(Ⅱ)の改訂・修正に関しては、記述量の過不足、内容の正確さ・適切さも含め、修正・加筆すべき点が数多く指摘されており、今年度以降も継続してその作業を進めて行くことにしている。

次に、(Ⅲ)(Ⅳ)を含めた改訂・開発については、16年度の配分予算のほとんどを印刷費に充てざるを得なかったことを反省し、新たにプロジェクト申請することとなった。「平成17年度教育プロジェクト事業計画書」では採択されなかったものの、「平成17年度授業改善プロジェクト経費」の配分を受けることができるようになり、下記の内容のプロジェクトを鋭意進行させているところである。

「新潟大学統一英語副教材」改訂増補プロジェクト  
(平成17年度授業改善プロジェクト経費)

代表 人文社会・教育科学系 助教授 秋 孝道

分担 人文社会・教育科学系 教授 大石 強  
分担 人文社会・教育科学系 助教授 本間 伸輔  
分担 人文社会・教育科学系 助教授 平野 幸彦

#### 概要・方法

今年度から、新たに策定された英語教育改善策に基づき、「共通英語」などでは、「新潟大学統一英語副教材」(以下、「副教材」)を用いた授業運営がなされている。

この「副教材」は、昨年度採択の予算により作成が可能になったが、予算のほとんど(30万円のうち27万円)を印刷費に費やさざるを得ず、十分な開発研究が出来なかった。

さらに、現在「英語教育改革作業委員会」によって検討されている「抜本的英語教育改革」では、現在のもとは一部異なる教育内容も想定されており、それに対応させる形で教材改善を進める必要性に迫られている。

また、「共通英語」が、高等学校英語から新潟大学英語への「橋渡し」的な役割を事実上担っていることも考え合わせ、「副教材」のさらなる充実をはかるために、このプロジェクトを申請する。改善の主眼は、以下の二点である。

- (1) 高等学校の英語教育の内容・レベルを調査し、特に「副教材」の内容に困難さを感じている学生のために、基礎的な教材の肉付けを図る。
- (2) 教育の内容の平準化をさらに進めるための方策として、教員向け「副教材利用解説」を作成する。